

競技規則並びに競技上の注意

1 競技規則

- (1) 本大会は、令和5年度(公財)日本ハンドボール協会競技規則及び本大会の申し合わせ事項で行う。
- (2) 競技時間については、男女とも25分-10分-25分、タイムアウト前後半3回とする。
- ①規定の時間内で勝敗が決しない場合、決勝までは第1延長、その後7mTC(5名)を行う。
- ②決勝は第1延長、第2延長まで行う。それでも決しない場合は7mTC(5名)を行う。
- ③試合間は25分とする。なお、7mTC等で試合終了が遅延した場合でも、次の試合は競技日程どおりオンタイムでのスローオフとなる。ただし、大幅に遅延した場合は協議の上、調整する場合がある。
- (3) 競技会場、試合球は次の通りとする。
- ①試合球は男子2号球、女子1号球とし、(公財)日本ハンドボール協会検定球を使用する。
モルテン(d60シリーズ)を使用する。
- ②競技会場について

日付	回戦	会場・広さ	使用ボール
10月13日(土)	男女 1回戦・準決勝・敗者1回戦	A・B・Cコート	モルテンd60 女子=1号球 男子=2号球
10月14日(日)	男女 決勝戦・代表決定戦	A・Bコート	
10月14日(日)	各代表決定戦後、認定式	各コート	

2 競技上の諸注意

- (1) アイマスク・コルセット・プロテクター等を身につけたい場合
- ①日本ハンドボール協会が定める「服装や保護を目的とした装具に関する規定」に準ずる。
- ②装具は初戦のコイントス時に持参し、競技委員長の確認を受ける。
- ③競技時のコルセットは、ユニフォームの中に入れる。
- (2) 各チームのトレーナー帯同について
- ①大会初日の受付でトレーナー帯同申請書を提出し、競技委員長の許可を得た者に限る。
- ②トレーナー席での写真や動画撮影、選手への指示は禁止とし、IDカードをつけてベンチ後方の席に座る。
- (3) 技術的機器について
- ①日本ハンドボール協会が定める「交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン」に準ずる。
- (4) 新競技規則に関しては顔面に関する内容のみ適用とし、それ以外は令和5年度競技規則に則る。
- (5) 選手、チーム役員の変更について
- ①選手役員変更届を提出した者で、競技委員長が承認した者に限る。
- ②選手等変更一覧(23日時点)は大会初日の受付にて配付する。以降は、公式記録用紙にて確認する。

【試合前の確認】

- (1) トス、ユニフォームおよび登録証の確認について
- ①第1試合は試合開始30分前、第2試合以降は前の試合の前半終了直後に、オフィシャル席にて行う。
- ②代表者はCP/GK登録ユニフォームをすべて持参し、審判員・テクニカルデレゲート(以下TD)・マッチオフィシャル(以下MO)の許可を得る。

③ベンチ入りする選手とチーム役員の登録証（トレーナーを除く）を持参し、TDに提出する。

選手証忘れ、未記載や写真添付がないなど不備があった場合、いかなる理由があっても出場は認めない。

④プログラム及び公式記録用紙を使用するので、メンバー表の提出は必要としない。

⑤トレーナーをチームベンチに入れる場合は、その旨を審判、TD、MO および相手監督に伝えること。

(2) 選手の服装等について

①ユニフォームの外にアンダーウェアが出るようであれば、ユニフォームの基調色と同色でなければならない。着用しない選手にあってはその限りではない。また、基調色以外にユニフォームに使用されている色のアンダーウェアの着用が認められる。その場合、試合前に認められたチームで統一された色でなければならない。

②ソックスの色は、チームで統一すること（メーカーのロゴは問わない）。

③ハチマキは結び目より先を短くし、長い髪は危険のないように結ぶこと。

④松ヤニ及び松ヤニスプレーの持ち込み及び使用は認めない。なお、違反した場合は、完全に除去されたことが確認されるまで競技に参加できない。

⑤金属・プラスチック製のピンは使用できない。また、プロミスリングは、外すかテーピング等で覆う。

⑥爪は相手に傷をつける要因となるため、きちんと切っておくこと。

(3) チーム役員の服装等について

①服装の上着の色は、相手チームのユニフォームと同色のものは着用できない。コイントス時に相手のユニフォームの色を確認し、同色の場合は試合開始前までに対応すること。

②試合中の言動は指導者として節度あるものとなるようにする。状況により競技部より注意指導を行う。

【試合開始前の確認】

(1) ベンチの人数等について

①監督1名・役員3名及び選手16名の20名以内とする。

②チーム責任者は役員表示「A」、その他の役員は役員表示「B」～「D」をつけなければならない。

チーム役員A～Dの役員証やトレーナー役員証は、大会受付にて配布したIDカードと兼ねる。

③チーム責任者だけがタイムキーパー・スコアラー・TD、可能であればレフェリーと話することができる。

④トレーナーがいる場合は、トレーナー席に入ることを認める。IDカードを着用する。

なお、競技中に選手を処置する際は、ベンチ席後方またはトレーナー席にて対処する。

⑤ベンチ幅は椅子の間隔を保つため、主催者が定めた競技規則外の幅で設置する。

(2) 公式記録用紙について

①試合開始前、監督(役員A)はオフィシャル席に行き、公式記録用に記載されている選手16名以内とチーム役員4名以内を確認しサインをする。なお、ベンチに入らない選手またはチーム役員など当日抹消選手または役員がいる場合は、該当氏名に朱書きで取り消し線を引くこと。

②試合終了後にレフェリー・TDが記録用紙を確認して、サインすることによって公式記録が成立する。

(3) 試合中の個人の荷物管理について

ベンチでは各自、荷物入れ（大会記念品ポリ袋等）を持参し、個人の荷物管理をする。

(4) 公示時計（加算式）を使用し、タイムアウトはホーンで、試合終了の合図もホーンで行う。

ただし、ブザーが聞こえにくい場合は、TDの笛の合図で対応する。

(5) 電光掲示板について

①チーム表示は、トーナメント若番が左側で表示となる。そのため、前後半で左右の表示を入れ替えない。

②退場者の再入場については、公示時計及び退場者タイマーを見て行う。

電光掲示板の故障等により電光掲示ができない場合は、オフィシャル席に再入場時間を掲示する。

(6) タイムアウトカードについて

- ① ジャッジテーブル席横の座席に設置してある。そのため、チームベンチにカードを置かないこととする。
- ② タイムアウトを取る場合は、コーチングゾーンを出て番号を間違えないようにタイムアウトカードを取りジャッジテーブルに置く。なお、コーチングゾーンを出たら、カードを手にしてすみやかに置くこと。
- ③ チームタイムアウトは請求カードをオフィシャル席に届いた時点で認める。

【競技中の確認】

(1) 試合の入退場時について

- ① 入場はサイドラインから中央に向かって一斉に入場し、審判の指示に従いあいさつをする。
- ② 試合終了後の挨拶については、特に規定を設けずに通常通りとする。

(2) 交代地域のコーチングゾーン規定について

- ① 各種の指示をするために1名が立つことが許される。
- ② センターラインから3.5mの位置を始点とし、ベンチ幅を終端とする。

(3) 試合に途中出場するためのアップについて

- ① ベンチ裏のスペースのみとし、ボールは使用することはできない。

(4) 給水について

- ① 試合前後・競技中・ハーフタイム・チームタイムアウト時の給水は、コートの外で行うこと。
- ② 床が濡れた場合は速やかに雑巾できれいに拭き取ること。(事前に各チームで雑巾を準備)
- ③ キャップタイプの水筒、スクイズボトル、ペットボトル等で蓋の付いたものを使用すること。

(5) ハーフタイム中について

荷物を速やかに移動してから給水等を行うこと。

(6) 試合終了後について

ベンチの荷物を速やかに撤収し、ごみを拾い、濡れた場所をきれいに拭いておく。